


| | | |
|---|-------------------------------|-----------------------------------|
|  | シーズ名 | Syntax (統語法) の歴史的変遷 |
| | 氏名・所属 等 | 佐藤 哲三 保健医療経営学部 教授 (博士(学術)) |
| <p><概要> 英語を古英語 → 中英語 → 現代英語の順に研究していくと、現代英語だけでは見えないところが見えてくる。これは日本語の場合も言うに及ばず、ほとんどすべての言語に関して言えることだろう。英語教育においても、このことを念頭に置いて、現代英語(初級～上級)から中世英語(中・古英語)までを学生および英語公開講座受講者(一般市民・教員・研究者)を対象に長年指導。</p> <p><アピールポイント> どの言語も現代言語の完全理解には、古語の理解が欠かせないように、現代英語の完全理解には、中世英語(中英語・古英語)の理解が必要。それを念頭においた研究により、現代英語のみの研究者に比して、より正確にかつ一味違う訳出が可能になる。</p> <p><利用・用途・応用分野> 専門書等の翻訳：これまで下記のような自・他の専門分野の専門書の翻訳をしてきたが、すべての分野の専門書等の翻訳が可能。 『チョーサーの英語』(1994, 松柏社) : Arthur Olave Sandved, <i>Introduction to Chaucerian English</i> (1985)の全訳。 『シェイクスピアの英語』(1998, 松柏社) : G. L. Brook, <i>The Language of Shakespeare</i> (1976)の全訳。 『社会診断』(2012, あいり出版) : Mary E. Richmond, <i>Social Diagnosis</i> (1917)の全訳。 *社会福祉分野の古典。</p> <p><関連する知的財産権></p> <p><関連するURL></p> <p><他分野に求めるニーズ></p> | | |
| キーワード | 統語法の歴史的変遷、現代英語、中世英語、翻訳 | |